

令和4年6月29日

香川大学産学連携・知的財産センター技術交流協力会

令和4年度総会

香川大学産学連携・知的財産センター
技術交流協力会
会長 間島 賢治

日 時：令和4年6月29日（水）14：15～14：55

場 所：香川大学 オリーブスクウェア及び Teams を使用した遠隔会議

次 第

1. 配付資料確認

2. 議 事

- | | |
|--------------------|---------|
| 1) 令和3年度事業報告 | 【議題資料1】 |
| 2) 令和3年度収支決算及び監査報告 | 【議題資料2】 |
| 3) 役員改選 | 【議題資料3】 |
| 4) 令和4年度事業計画 | 【議題資料4】 |
| 5) 令和4年度収支予算 | 【議題資料5】 |

3. 質疑応答

4. 閉 会

[配付資料]

- 1) 総会次第
- 2) 総会資料（議題資料1～5）
- 3) 会員名簿
- 4) かがアド

令和3年度事業報告

1. 技術交流グループ研究会の開催状況

【参考資料1】

研究会・講演会・現地見学会開催	6回
技術交流協力会が講師招聘した講演会	1回（講師）4名
共催団体が講師招聘した講演会	3回（講師）5名
その他 共催活動	3回

2. 産学連携・知的財産センターが実施する萌芽的研究助成制度への支援 【参考資料2】

4件の萌芽的研究への助成（うち2件を支援）

3. 産学連携・知的財産センター活動報告

【参考資料3】

各種メディアによる広報活動（銀行関連の発行の冊子やビジネス系月刊誌など）

共同・受託研究実績 207件、128,027千円（共同）

110件、309,518千円（受託）

産学連携実施状況 特許権実施等収入 19,379千円

特許権保有件数のうち実施許諾中の特許件数の割合 28.9%

発明届出件数 17件

国内特許等出願件数 19件

外国特許等出願件数 80件

知的財産評価専門委員会開催 20回

センターセミナー 2回

令和3年度 グループ活動開催状況

	開催日	グループ名	出席者	交流会概要
1	6月24日	プロジェクトマネジメント 技術交流グループ	32名	演題「自社クラウドサービスプロジェクトのメンバーからリーダーへ」 講師 永山 和樹氏(株式会社 DynaxT) プロジェクトメンバーとしてアルバイトで1年半勤務後、新たに立ち上げた自社クラウドサービス開発プロジェクトリーダーを務めました。 このプロジェクトは、メンバーとして働いていたプロジェクトの基盤を利用した新たなプロジェクトであり、要件定義から完成まで約2か月という短期間のプロジェクトでした。そのためメンバーが効率よく動ける必要があり、様々な管理を行った経験を通じて、プロジェクト管理について学んだこと、成功・失敗した点や今後の改善策などをお話しいただいた。 ※技術交流協力会共催
2	6月28日	技術交流協力会総会	33名	1. 総会(14:15～14:55) 1) 令和2年度事業報告 2) 令和2年度決算報告および監査報告 3) 役員変更について 4) 令和3年度事業計画 5) 令和3年度予算 2. 講演会 城下 悦夫 氏(香川大学副学長 産官学連携・特命担当) 演目「足るを知るイノベーション」 令和3年度総会については、新型コロナウイルスの影響を鑑み、会員の皆さまにはご参集いただく開催いたしました。
3	8月1日	バイオマテリアル工学研究会 講習会	31名	松本洋明(創造工学部教授)、上村 忍(創造工学部教授)、 宮川勇人(創造工学部准教授)、掛川寿夫(創造工学部教授) 【主題】:科学的に検証された健康に関する製品開発コンセプト 「先端マテリアル科学コースにおける革新的な材料(マテリアル)開発研究」 概要:革新的な材料(マテリアル)の開発が、ヒトの生活に大きな進歩をもたらします。 ノーベル賞の技術の多くは、材料に関する研究から発見され実用化されています。 本講座では、香川大学創造工学部先端マテリアル科学コースで実施されている 革新的な材料(マテリアル)の開発研究の一部について紹介していただいた。 ※技術交流協力会が招聘
4	10月20日	プロジェクトマネジメント 技術交流グループ	28名	平見 尚隆氏(創造工学部 教授)に「大学における QC 的ものの見方考え方の教育活動」と題しご講演いただいた。インド人エンジニアへの教育から得た QC 教育に関するヒントを大学教育へ展開した事例をご紹介いただき、QC 関連についての大学教育に関しお話を聞いた。講演後は、質疑応答が行われ、平見氏には的確なご回答を頂いた。※技術交流協力会共催
5	10月24日	海域環境保全グループ	8名	本見学会は、令和3年度技術交流研究会現地見学会(海域環境改善グループ)として、有用二枚貝であるアサリ資源回復を目指すために、プランクトンネットによるアサリ浮遊幼生の採取によって対象海域(昨年度同様に高松市庵治町～さぬき市志度湾地先海域)のどの部分でアサリ浮遊幼生が着生しやすいのかを科学的に検討するために、一般市民を対象として開催した。また、海底の状況について潜水調査を実施し、藻場の現況と修復方法について解説した。 見学会は、船舶を使用し、密集した状況を避け、2班に分けて実施した。当日は天候にも恵まれ、参加者は8名であった。当日は天候にも恵まれた。
6	11月30日	産業廃棄物リサイクル研究会	5名	産業廃棄物リサイクル研究会の令和3年度見学会として、木質バイオマス発電事業に取り組む土佐グリーンパワー(株)土佐発電所を訪問し、特に当発電所から排出される燃え殻の物性やリサイクルの現状について情報を収集した。屋内での説明を約40分受けた後、屋外にある土佐発電所を徒歩で見学する予定であったが、豪雨に見舞われたために、車中から外観を見るのみとなった。
7	2月25日	プロジェクトマネジメント 技術交流グループ	33名	山中 隆史氏(創造工学部 教授)をお招きし、「オンラインでのディスカッションを活発にするための工夫」と題しご講演いただいた。オンラインでのディスカッションを活発にするための授業での工夫やコミュニケーションの特徴、注意点について、対面クラスの状況と比較しながら紹介いただいた。クラスはもとより企業でのチーム活動においても重要な「心理的安全性」を高める工夫についても議論いただいた。 ・研究発表では根来 隆氏(中央コンピューター株式会社)に「IT技術を活用した生産現場の効率的な運用について」と題しご講演いただいた。生産現場ではたゆまぬカイゼンの気運があるかと思いますが、IT技術を活用することでさらに効率化を促進することができます。当社で手掛けた事例をベースに紹介いただいた。 引き続き、神坂 誠司氏(株式会社 STNet)に「モバイル端末を活用した業務システム構築プロジェクト事例」と題しご講演いただいた。モバイル端末を活用した業務システム構築プロジェクトの事例紹介いただいた。本プロジェクトは、業務毎に使い分けていた3種類の端末機能を一つのモバイル端末に統合するプロジェクトであった。新たに通信機能や業務支援機能を搭載し、モバイル端末の位置情報や現場写真を地図上で共有する機能を追加した。 本プロジェクトの特徴や制約に対するテスト品質確保・スケジュール遵守等の取り組みをご紹介いただいた。 ※技術交流協力会共催
令和3年度 研究会総参加者数			170名	

共催活動

	開催日	会の名称
1	6月24日	プロジェクトマネジメント学会四国支部研究会
2	10月20日	プロジェクトマネジメント学会四国支部研究会
3	2月25日	プロジェクトマネジメント学会四国支部総会・年次研究大会

令和3年度 萌芽的研究助成金一覧

	番号	所属	職名	氏名	課題名	研究期間	共同研究機関	助成額
香川大学	1	創造工学部	教授	山中 稔	産業廃棄物焼却施設由来燃え殻を原料とした機能性素材の開発	R3.6.1～R4.3.31	会員	40万円
技術交流 協力会	2	創造工学部	助教	山本 高広	フィールドモニタリングシステム「openATOMS」を用いた建築環境計測・施設 利用行動変容デバイスの開発	R3.7.15～R4.3.31	会員	45万円
香川大学	3	創造工学部	教授	須崎 嘉文	ドレスシャツの形態安定加工に関する研究開発	R3.7.1～R3.9.30	非会員→会員	40万円
技術交流 協力会	4	農学部	准教授	川崎 淨教	オリーブ搾油果汁廃液を利用した新規飼料開発	R3.8.1～R4.3.31	会員	55万円

別紙様式 2

令和 4 年 4 月 28 日

産学連携・知的財産センター長 殿

(申 請 者)

所属・職名 創造工学部・助教

氏 名 山本 高広

連絡先

(Tel・E-mail) 090-9771-9014

yamamoto.takahiro@kagawa-u.ac.jp

香川大学 産学連携・知的財産センター
「萌芽的研究助成金」による研究成果報告書

標記の助成金による研究等について、下記のとおり完了しましたので報告します。

記

1. 課題名

フィールドモニタリングシステム「openATOMS」を用いた建築環境計測・施設利用行動変容デバイスの開発

2. 研究等の経過及び成果

研究の経過および成果を添付の成果報告書（参考資料 1）に示す。

3. 研究等に要した経費 450,000 円（内訳書別紙のとおり）

4. その他参考となる事項

（推薦コーディネーターからのコメント）

予定されていた研究成果が得られており、「萌芽的研究助成金」の目的である企業との本格的な共同研究の実施が期待できます。

別紙

(金額単位：円)

区 分	内 訳	数 量	金 額
謝 金	該当なし（注1）	-	0
旅 費	該当なし	-	0
研 究 費 等	Wifi 計測ユニット	18 台	270,000
消耗品費	（CO2 計測器、マイコンなどで構成）		
そ の 他	無線通信ユニット	2 セット	100,000
	（人感センサー・無線通信機、子機、親機など）	2 セット	25,000
	Wifi ルーター＋クレードル		
	抵抗、コンデンサー等の素子、工具、文房具など	-	55,000
合 計			450,000

注1 当初計画においては 50,000 円程度の謝金を計画していたが、後述の消耗品費（センサー素子）の調達の変更に生じた。

注2 当初計画においては、openATOMs の調達を予定していたが、過去に別のプロジェクトで使用した openATOMs が転用可能であったことから、四国総研から無償で提供された。

注3 計測器設置に当たり、以下の事由から調達の数量に変更が生じた。

- 大学生協に協力を要請する中で、当初計画していた林町、幸町キャンパスでの計測に加え、カフェテリア等の別スペースや、他の農学部、医学部キャンパスにおいても実測の同意を得ることができたため、計測台数を追加して実測を進めた。（当初計画では 10 点程度の計測点を、リザーブ用のユニットも含め最終的に 18 点まで拡大している。）
- カメラの設置については利用者への影響や個人情報への配慮から、不特定多数の利用が予想される食堂等の用途での実験の前に事前の検討が必要と思われたため、利用者が限定され、同意が得られる学外の協力事業者に依頼し、別サイトでの検討を行った。この際、当初計画では計上していなかった通信用 Wifi ルーターなどを調達している。
- IC チップ供給不足による品薄により、一部のモジュールは調達が難しい状況であったため、当初計画した型式の製品とは別の代替品を調達した。

別紙様式 2

令和 4 年 4 月 28 日

産学連携・知的財産センター長 殿

(申 請 者)

所属・職名 農学部・准教授

氏 名 川崎 淨教

連絡先 087-891-3061

(Tel・E-mail) kawasaki.kiyonori@kagawa-u.ac.jp

香川大学 産学連携・知的財産センター
「萌芽的研究助成金」による研究成果報告書

標記の助成金による研究等について、下記のとおり完了しましたので報告します。

記

1. 課題名

オリーブ搾油果汁廃液を利用した新規飼料開発

2. 研究等の経過及び成果

オリーブ搾油果汁 (OMW) の粗成分およびポリフェノールとしてオレウロペインやチロソール、ヒドロキシチロソールを測定した。また、真空パックを用いたラボスケールの発酵 TMR を複数作成し、貯蔵期間中の温度・水分・pH 変化、開封後の粗成分、飼料中細菌叢を測定した。なお、発酵 TMR は OMW を 0%や 5%、10%、20%配合した試験区を設け、貯蔵開始後 1 週間おきに 6 袋ずつ開封し分析に用いた。最終日である 28 日目のみ 10 袋開封し、細菌叢解析に用いた。

OMW は水分以外に、タンパク質や粗繊維、灰分を含有しており、ポリフェノールも約 1 mg/ml 含有していた。発酵 TMR 貯蔵後の pH 変化では、OMW0%区に比べ 20%が有意に高い値を示したものの、発酵 TMR の成分分析や細菌叢には試験区間で目立った差は見られなかったことから、OMW は問題なく発酵 TMR の原料として利用可能であることが明らかとなった。

3. 研究等に要した経費

550,000 円 (内訳書別紙のとおり)

4. その他参考となる事項

(推薦コーディネーターからのコメント等)

小豆島のオリーブ生産業者との協働により、本来廃棄される有機物に新たな付加価値としての可能性を探索する取組みであり、想定された効果を満たす解析結果が得られた

ため、今後は飼料試作のフェーズに移り、企業との製品開発や対象動物の多角化を目指す方向で調整が進んでいる。このことから、本取組みは今後の産学連携への進展に大きく期待できる結果となったと評価する。

別紙

(金額単位：円)

区 分	内 訳	数 量	金 額
謝 金			0
旅 費	小豆島 往復フェリー代	1 件	13,360
研 究 費 等 消耗品費 そ の 他	シャーレ、分析カラム、分析 試薬等	1 式	536,640
合 計			550,000

◆各種メディアによる広報活動

区 分	名 称	備 考
百十四銀行関連	(一財)百十四経済研究所「調査月報」	毎月1 件の研究シーズ掲載
香川銀行関連	香川ニュービジネスクラブ事務局「KNBC NEWS」	毎月1 件の研究シーズ掲載
セミナー関連	ビジネス香川	産学連携・知的財産センターセミナー等の掲載 月刊誌(朝日新聞、日本経済新聞折り込み)

令和2年度、令和3年度での香川大学における共同・受託研究実績（速報値）

	令和2年度	令和3年度
共同研究件数	210件	207件
共同研究受入額	138,845,751円	128,027,747円
受託研究件数	129件	110件
受託研究受入額	209,090,895円	309,581,854円

文部科学省 大学等における産学連携実施状況について（令和2年度実績）

（3）特許権実施等収入

（単位：千円）

No.	機関名	収入額	前年度 No.
1	京都大学	698,373	1
2	九州大学	601,936	10
3	大阪大学	509,758	3
4	東京大学	261,744	2
5	東北大学	157,139	4
6	徳島大学	131,417	-
7	札幌医科大学	105,462	-
8	北海道大学	86,700	6
9	近畿大学	82,359	24
10	神戸大学	78,768	11
11	名古屋大学	72,156	7
12	慶應義塾大学	67,998	13
13	日本医科大学	58,243	-
14	東京工業大学	57,301	9
15	横浜市立大学	50,242	-
16	北里大学	45,190	-
17	東京農工大学	44,098	-
18	筑波大学	42,694	20
19	広島大学	41,265	19
20	日本大学	38,328	12
21	富山大学	35,859	-
22	愛媛大学	35,291	17
23	情報・システム研究機構	34,244	-
24	熊本大学	29,359	15
25	信州大学	29,305	21
26	山口大学	29,167	18
27	埼玉医科大学	27,468	27
28	高知大学	26,209	-
29	長崎大学	25,364	-
30	東京医科歯科大学	24,076	8

（4）特許権保有件数のうち
実施許諾中の特許権数の割合

No.	機関名	割合	実施許諾中 の特許権数	前年度 No.
1	早稲田大学	67.0%	468	19
2	札幌医科大学	65.1%	142	-
3	滋賀医科大学	47.0%	62	1
4	横浜市立大学	45.1%	83	17
5	東京理科大学	44.7%	236	21
6	山形大学	41.2%	133	28
7	筑波大学	39.9%	339	-
8	九州大学	38.0%	581	-
9	東京大学	37.5%	1,685	3
10	京都大学	36.1%	1,100	2
11	関西学院大学	35.9%	46	5
12	富山大学	34.8%	106	4
13	北海道大学	33.4%	390	8
14	山口大学	32.9%	230	14
15	徳島大学	32.3%	117	6
16	福井大学	29.4%	65	29
17	慶應義塾大学	29.3%	234	-
18	久留米大学	28.3%	36	7
19	広島大学	27.8%	256	16
20	香川大学	27.5%	107	18
21	神戸大学	26.9%	141	-
22	日本大学	25.8%	86	12
23	豊橋技術科学大学	25.4%	95	25
24	東京女子医科大学	24.7%	46	-
25	東京医科歯科大学	24.1%	91	15
26	千葉大学	21.8%	168	-
27	名古屋大学	21.7%	292	9
28	熊本大学	21.7%	103	27
29	鳥取大学	20.6%	70	-
30	信州大学	20.5%	195	23

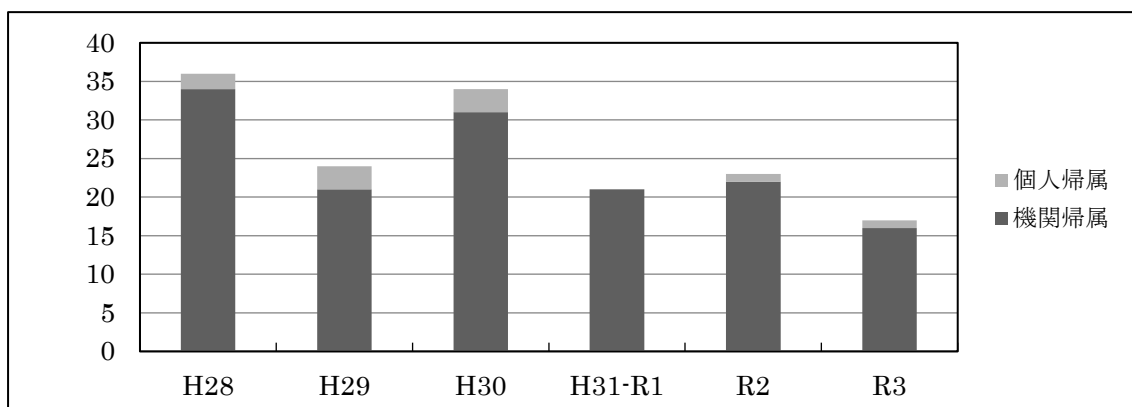
※ 特許権保有件数が100件以上の機関を対象としている。

R2年度18,673千円

R3年度19,379千円

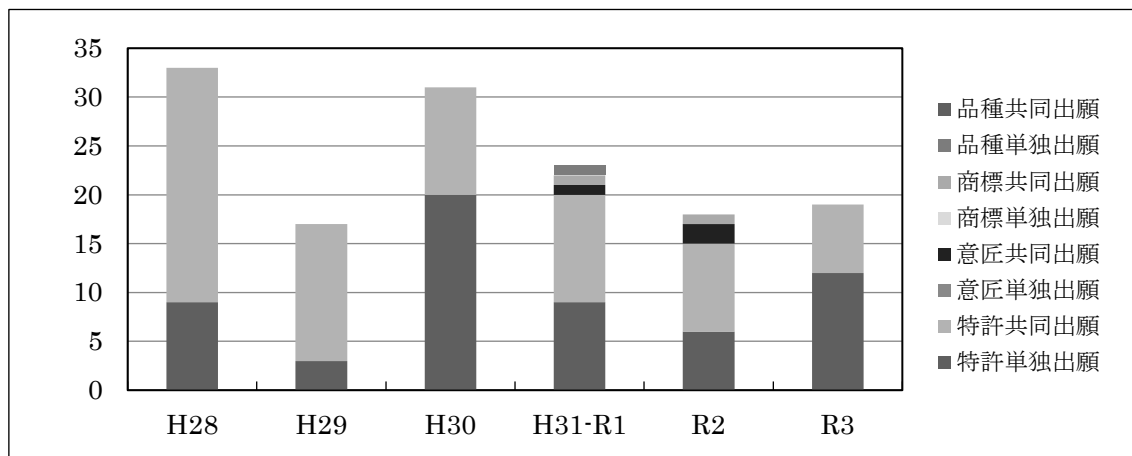
28.9% 127件

◆発明届出件数の年度別推移



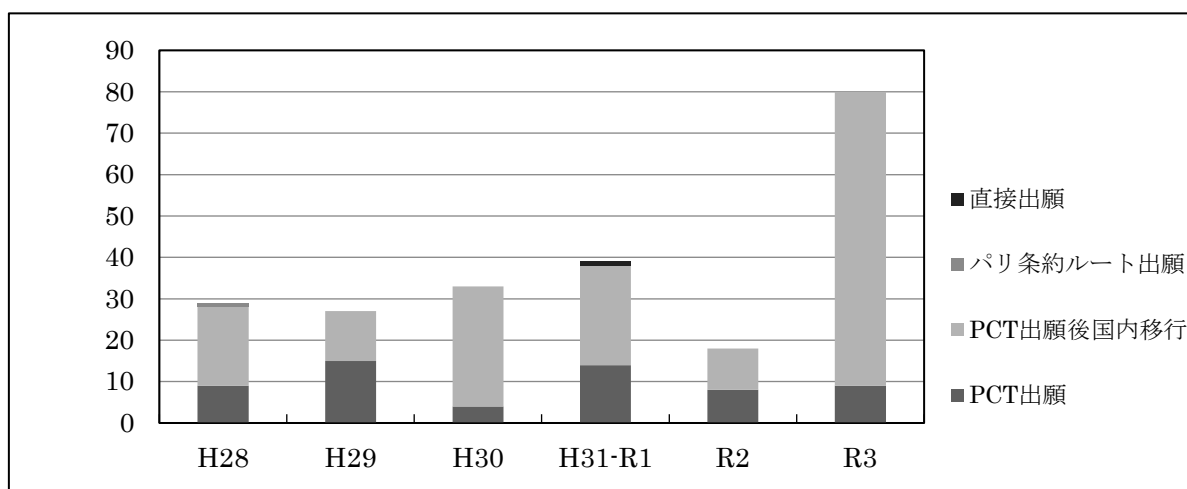
* 機関帰属(大学が権利を承継)、個人帰属(大学が権利を非承継)

◆国内特許等出願件数の年度別推移



区分	H28	H29	H30	H31-R1	R2	R3	合計
特許単独出願	9	3	20	9	6	12	59
特許共同出願	24	14	11	11	9	7	76
意匠単独出願			0	0	0	0	0
意匠共同出願			0	1	2	0	3
商標単独出願			0	0	0	0	0
商標共同出願			0	1	1	0	2
品種単独出願			0	1	0	0	1
品種共同出願			0	0	0	0	0
合計	33	17	31	23	18	19	141

◆外国特許等出願件数の年度別推移



区分	H28	H29	H30	H31-R1	R2	R3	合計
PCT 出願	9	15	4	14	8	9	59
PCT 出願後国内移行	19	12	29	24	10	71	165
パリ条約ルート出願	1		0	0	0	0	1
直接出願			0	1	0	0	1
合計	29	27	33	39	18	80	226

* PCT出願後国内移行は、日本国内移行も含む。 * 直接出願は、米国仮出願も含む。

◆知的財産評価専門委員会の開催状況

回数	開催日	議案（件）	報告（件）	備考
第364回	令和3年4月14日	10	31	
第365回	令和3年5月12日	3	17	
第366回	令和3年6月4日	1		メール審議
第367回	令和3年6月9日	3	38	
第368回	令和3年6月11日	1		メール審議
第369回	令和3年7月7日	10	28	
第370回	令和3年7月9日	1		メール審議
第371回	令和3年7月28日	11	17	
第372回	令和3年9月8日	11	30	
第373回	令和3年10月13日	5	32	
第374回	令和3年11月10日	5	33	
第375回	令和3年12月8日	13	13	
第376回	令和3年12月9日	1		メール審議
第377回	令和4年1月12日	4	29	
第378回	令和4年1月21日	2		メール審議
第379回	令和4年2月9日	8	24	
第380回	令和4年2月9日	1		メール審議
第381回	令和4年3月9日	6	19	
第382回	令和4年3月9日	1		メール審議
第383回	令和4年3月24日	1		メール審議

◆産学連携・知的財産センターセミナー

回数	日時・場所	講演題目	講師・所属	参加者数
第1回	令和3年5月31日 Zoomを使用した遠隔講演	香川大学大学院「知的財産セミナー（入門編）」	辻丸 光一郎 氏 （辻丸国際特許事務所 弁理士、香川大学客員教授）	85名
第2回	令和3年9月6日 Zoomを使用した遠隔講演	「基礎からの著作権～権利者と利用者の立場から～」	城田 晴栄 氏 （(株)ループホール代表取締役 弁理士）	66名

香川大学産学連携・知的財産センター技術交流協力会 令和3年度 収支決算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

収 入		支 出	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
会費収入	2,018,000	人件費	319,708
個人会員会費(9人)	18,000	事務補助員雇用費等	319,708
法人会員会費(36社40口)	2,000,000		
補助金収入	0	事業費	1,273,294
雑収入	16	研究発表会費	40,500
受取利息	16	学会補助費	
その他	0	交流グループ研究会活動費	155,024
		資料費	26,400
		什器・備品費	
		印刷・通信費	38,920
		消耗品費	990
		旅費・交通費	11,460
		会議・会場費	
事業収入	0	萌芽的研究助成金	1,000,000
研究発表会・講演会	0		
工場見学会・セミナー	0	雑費	6,263
その他	0	手数料関係	6,263
		予備費	0
前年度よりの繰越金	1,666,769	次年度への繰越金	2,085,520
合 計	3,684,785	合 計	3,684,785

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

令和4年 5月 12日

監査

合谷 祥一 

末澤 保彦 

香川大学産学連携・知的財産センター技術交流協力会
令和3年度 収支予算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

収 入		支 出	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
会費収入	2,118,000	人件費	450,000
個人会員会費(9人)	18,000	事務補助員雇用費等	450,000
法人会員会費(39社42口)	2,100,000		
		事業費	1,580,000
		研究発表会費	
		学会補助費	
		交流グループ研究会活動費	500,000
		資料費	30,000
		什器・備品費	0
		印刷・通信費	40,000
		消耗品費	
		旅費・交通費	10,000
		会議・会場費	
		萌芽的研究助成制度寄附	1,000,000
補助金収入	0		
		雑費	10,000
雑収入	10	手数料関係	10,000
受取利息	10	予備費	0
その他	0		
事業収入	0		
研究発表会・講演会	0		
工場見学会・セミナー	0		
その他	0		
		次年度への繰越金	1,744,779
前年度よりの繰越金	1,666,769		
合 計	3,784,779	合 計	3,784,779

香川大学産学連携・知的財産センター 技術交流協力会 役員(案)

【令和4年度】 【令和3年度】

会 長	佐藤 哲也	← 間島 賢治	(一社)香川経済同友会 代表幹事
副会長	河井 治信 永富 太一		香川県産業技術センター 所長 香川大学産学連携・知的財産センター センター長
幹 事	大谷 誠一 井上 博之 梶谷 孝啓	← 内田 俊生	(一社)香川経済同友会 事務局長 香川大学産学連携・知的財産センター 知的財産部門長兼産学官連携コーディネーター 香川大学産学連携・知的財産センター 産学官連携コーディネーター
理 事		← 大西 玉喜	四国電力(株) 執行役員香川支店長 四国旅客鉄道(株) 代表取締役社長 (株)四国総合研究所 代表取締役 専務取締役 (株)タダノ 執行役員 (株)レクザム香川工場 取締役副社長 生産本部長 アオイ電子(株) 取締役 第1技術副本部長 (株)合田工務店 代表取締役社長 大倉工業(株) 取締役 合成樹脂事業部長 兼 R&Dセンター担当 香川県商工労働部 産業政策課 主幹
	西牧 世博 清水 英範 野口 真児 住田 博幸 相沢 吉昭 森田 紘一 上原 英幹 濱田 敏広	← 岡田 吉郎	
監 査	合谷 祥一 末澤 保彦		(株)テクノネットワーク四国 代表取締役社長 (公財)かがわ産業支援財団 参与(兼)地域共同研究部長

顧 問	浜田 恵造 原 伸幸 丹羽 克彦 寛 善行 泉 雅文 柏原 亮		香川県知事 四国経済産業局長 四国地方整備局長 香川大学長 香川県商工会議所連合会長 日本政策投資銀行四国支店長
-----	--	--	---

参 与	合谷 祥一 大西 芳秋 寺嶋 賢治 松本 信二 蒲生 欣史 野崎 武司 三野 靖 長山 貴之 三木 崇範 末永 慶寛 秋光 和也 原 真志	← 原市 聡 ← 近藤 清志 ← 佐藤 忍 ← 上田 夏生 ← 深井 誠一	(株)テクノネットワーク四国 代表取締役社長 (独)産業技術総合研究所四国センター所長 香川県商工労働部長 (株)百十四リース 代表取締役社長 トモニリース(株) 代表取締役社長 香川大学教育学部長 香川大学法学部長 香川大学経済学部長 香川大学医学部長 香川大学創造工学部長 香川大学農学部長 香川大学大学院地域マネジメント研究科長
-----	--	---	--

技術交流協力会グループ一覧(案)

No.	グループ名	グループ・リーダー	サブ・リーダー	内容説明
1	光学計測技術交流グループ	牛田 善喜 取締役副工場長	石丸 伊知郎 教授	レーザ等を用いた光学計測技術を中心として、超音波や電波を用いた波動計測技術機関技術とし、その情報処理技術を含めた検査計測研究グループ
		(株)レクザム	創造工学部(機械システム工学)	
2	マイクロマシーン技術交流グループ	岡田 吉郎 取締役第1技術本部長	下川 房男 教授	マイクロファブリケーション技術を用いて実現可能なセンシングデバイスやマイクロ・ナノ光デバイスに関する調査・研究グループ
		アオイ電子 (株)	創造工学部(機械システム工学)	
3	プロジェクトマネジメント(PM)技術交流グループ	大和田昭邦 代表取締役社長	荒川 雅生 教授	企業内のプロジェクトの進め方を整理し、進捗を明確化することにより、企業活性化を図るプロジェクトマネジメント(PM)の研究。 また、制約理論の応用により、中小企業における中規模生産のためのシステム研究グループ
		(株) DynaxT	創造工学部(レジリエンス・デザイン)	
4	コンクリート構造物の耐久性評価技術交流グループ	朝倉 光司 土木事業部 コンクリート・鋼構造グループ 次長	松島 学 特命教授	コンクリート構造物の劣化が社会問題となっている。コンクリート構造物を対象に①診断技術、②塩害・中性化・アルカリ骨材反応・凍害等の劣化予測、③補修技術、④ライフサイクルコストを考慮した補修計画等を勉強し、新しい技術を生み出す研究交流グループ
		(株) 四電技術コンサルタント	創造工学部(環境デザイン工学)	
5	海域環境保全技術交流グループ	近藤 高史 市場開拓部 部長	末永 慶寛 教授	各種開発に伴う海域(特に、瀬戸内海の様な閉鎖性海域)の環境変化について、リアルタイムでのモニタリング技術、データ解析および定量的環境影響評価システムを開発し、今後の海域開発のあり方について検討する技術交流グループ
		日本興業 (株)	創造工学部(環境デザイン工学)	
6	低温乾燥農産食品研究会	前上 聖次 技術部長	小川 雅廣 教授	低温乾燥技術をさらに改善するための乾燥技術に関する研究。低温乾燥技術を核として、香川県の農産品を特色ある食品素材とするための検討を行い、香川県の農産業、食品産業の活性化のための具体的研究を推進する
		クールドライマシナリー(株)	農学部(応用生物科学科)	
7	バイオマテリアル工学研究交流グループ	高梨 仁志	掛川 寿夫 教授	地球上の歴史において、いつどんな物質が誕生し、生命がどう進化していったのか。この化学進化にこそ、病気の発生や老化の原因が隠されています。今、地球上で起こっている環境問題も、すべて化学進化という壮大な歴史をたどることで理解できるのです。地球と生命の起源とも言える化学進化を見つめなおし、そこから発想した化粧品、医薬部外品等に利用できる新しい機能性成分の開発やさまざまな環境浄化のための技術開発を実践します。
		(株)イーエスティジャパン	創造工学部(先端材料科学)	
8	産業廃棄物リサイクル研究会	岩部 光隆 常務取締役	山中 稔 教授	廃棄物処理企業の経営者・技術者と廃棄物再利用をテーマに研究する研究者が集い、香川県下の産業廃棄物をリサイクルする方法・技術について、幅広く議論・検討することにより。社会・環境に優しい廃棄物処理の実践を目指す研究を行う。
		(株)エムケーインデクト	創造工学部(環境デザイン工学)	
9	野生資源食材開発グループ	富田 孝之輔	川崎 淨教 准教授	農産品の加工過程で本来廃棄されていた未利用資源の新たな価値を見出し、ブランド商品の確立、6次産業化への貢献、持続可能な社会の実現等、地域課題解決と時代に即した産学連携実績の創出への寄与、SDGsに貢献する取り組みを行う
		小豆島食材開発会議	農学部(動物栄養学)	
10	(仮)さぬきキウイっこ普及研究会	末澤 克彦 代表取締役	片岡 郁雄 教授	さぬきキウイっこの生産普及を広く普及するため、生産者が中心となった研究会を開催する
		Orchard&Technology(株)	理事・副学長 (研究・産学官連携教員評価担当)	

技術交流協力会
(議4)参考資料1
令和4年6月29日
総会

研究会参加者アンケートの集計

技術交流協力会の活性化の参考にするため、研究会後に下記のようなアンケートのご協力をお願いしている。下記は令和3年度研究会3回分の集計。(3回分参加者91名、内回答者35名、回答率38%)

問1. この催しを何で知りましたか。

- ・産学連携・知的財産センターからのメールやFAX・・・16
- ・産学連携・知的財産センターのホームページ・・・・・・0
- ・その他(共催団体からの案内など)・・・・・・19

問2. 本日の講演会はいかがでしたか。

- ・興味深い内容で参考になった。また参加したい・・・・・・35
- ・期待はずれだった(どのようなところが?・・・・・・0
- ・無回答・・・・・・・・・・0

問3. 今後どのようなテーマでのセミナーや講演会を希望されますか。

(複数回答、各分野上位を記載)

建設関連	・防災・危機管理関連…8, 水圏環境問題(海洋・河川・ため池)…2
情報通信関連	・移動通信技術…6, 信頼性工学…3
機械技術関連	・画像処理技術…7, 品質管理…20
材料技術関連	・分子工学…1
生物化学・医学系	・園芸…5, 植物機能…2
経営・法務・教育系	・リスクマネジメント…21, マーケティング…11
その他	・産学連携…5

問4. ご希望、ご意見

- ・今回音声・画像ともとてもクリアで、ストレスなく聴講できました。
- ・QC 的ものの見方を久しぶりに思い起こさせていただきました。
- ・情報処理業務では QMS および生産管理上のリスクマネジメント、品質分析、見える化での品質マネジメントを回しておりますが、一般的+企業内標準でテラリング適用しています。そのあたりで研究に取り組まれているところの講演があった場合には社員に広く身に付けてもらいたいと思っております。"
- ・オンラインでの講演でしたが、思っていたよりも画質や音質が高く通常の講演と同じように参加できたので良かったと思いました。
- ・非常に解りやすく説明していただいたので興味深くきくことが出来た。
- ・山中先生の講演が非常にわかりやすく興味深いものでした。自身の言動を振り返り、通常業務に生かしていきたいと思えます。

(案)

令和 年 月 日

香川大学産学連携・知的財産センター
技術交流協力会関係各位

香川大学産学連携・知的財産センター
技術交流協力会
会長 佐藤 哲也

令和5年度技術交流協力会総会の開催について（ご案内）

拝啓 時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、新年度を迎え、技術交流協力会では令和5年度総会及び講演会を下記のとおり開催いたします。

ご多忙とは存じますが、ご出席賜りますようご案内申し上げます。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会員の皆さまにはWeb会議方式をとらせていただきます。ご出席の方には追って招待URLをお知らせいたします。（Microsoft Teamsでの会議を予定しています）

まことに恐縮ながらご都合のほどを、月 日（ ）までに「参加連絡票フォーム」か、別紙「参加連絡票」にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日 時：令和5年 月 日（ ） 14：15～15：00

2. 場 所：Microsoft Teams を使用した遠隔会議形式

3. 議事等：

1. 総 会（14：15～14：55）

- 1) 令和4年度事業報告
- 2) 令和4年度決算報告および監査報告
- 3) 役員改選について
- 4) 令和5年度事業計画（案）
- 5) 令和5年度予算（案）

2. 講演会（15：00～16：00）

演 目：「 」

講 師： 氏（ ）

※詳細は同封のチラシをご覧ください。



参加連絡票フォーム

出欠のご予定を記入し、月 日（ ）までに参加連絡票フォームにてご返信ください。

パソコン、スマートフォンからアクセスできます。

参加連絡票フォーム <https://forms.office.com/r/4DmvuzvLSG>

連絡先：〒760-8521 高松市幸町1番1号

香川大学産学連携・知的財産センター 技術交流協力会

E-mail: kashihara.aya@kagawa-u.ac.jp Tel:087-832-1455 (Fax 兼用)

フォームでの回答が難しい方はメールかファックスにてご返送お願いいたします。

香川大学産学連携・知的財産センター技術交流協力会

令和5年度総会 参加連絡票

令和 年 月 日 () 開催の

・総会に (Web 会議で出席します・欠席します)

・講演会に (Web 会議で参加します・参加しません)

ご所属:

ご芳名:

TEL: — —

E-mail:

年 月 日

委 任 状

私は、令和 年 月 日開催の年度香川大学産学連携・知的財産センター技術交流協力会総会
における議案についての可否を、_____氏（記名無き場合は議長）に一任します。

所 属

氏 名

令和5年度 香川大学産学連携・知的財産センター技術交流協力会総会参加連絡票および委任状

ご案内にも記載しましたとおり、下記の設問にご回答ください。

* 必須

* このフォームでは名前の記録を行います、名前を入力してください。

1. 会社名等所属機関名をご記入ください。 *

2. 代表者のお名前をご記入ください。 *

3. 連絡担当者の方のメールアドレスをご記入ください。 *

4. ●/●● 総会に *

☐ 参加します

☐ 欠席します

5. ●/●● 講演会に *

☐ 参加します

☐ 欠席します

6. 委任状（総会をご欠席される場合は下記ご記入ください。）

私は、令和 年 月 日開催の年度香川大学産学連携・知的財産センター技術交流協力会総会における議案についての可否を、_____氏（記名無き場合は議長）に一任します。

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。

 Microsoft Forms

香川大学産学連携・知的財産センター技術交流協力会
令和4年度 収支予算書(案)

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

収 入		支 出	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
会費収入	2,018,000	人件費	450,000
個人会員会費(9人)	18,000	事務補助員雇用費等	450,000
法人会員会費(36社40口)	2,000,000		
		事業費	1,950,000
補助金収入	0	研究発表会費	
		学会補助費	
雑収入	10	交流グループ研究会活動費	500,000
受取利息	10	資料費	30,000
その他	0	什器・備品費	170,000
		印刷・通信費	40,000
		消耗品費	
事業収入	0	旅費・交通費	10,000
研究発表会・講演会	0	会議・会場費	
工場見学会・セミナー	0	萌芽的研究助成制度寄附	1,200,000
その他	0		
		雑費	10,000
前年度よりの繰越金	2,085,520	手数料関係	10,000
		予備費	0
		次年度への繰越金	1,693,530
合 計	4,103,530	合 計	4,103,530